

内令第二百二十八號

艦船派遣ニ關スル件第一項中「佐世保鎮守府司令長官ハ」ノ下「平時乗員訓練ノ爲」ヲ削リ  
竹敷要港部司令官ノ下及馬公要港部司令官ノ下「同目的」ヲ「平時乗員訓練」ニ改メ同第二  
項中「麾下ノ艦船ヲ第三海軍區」ノ下ニ「及韓國沿岸」ヲ追加セラル

明治四十年十二月二日

海軍大臣 男爵齋藤 實

内令提要一四頁参照

百九十八

海軍

0525

内令第二百二十九號

左ノ通人員ヲ臨時増置セラル

明治四十年十二月六日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

吳海軍港務部

上等兵曹	一人
上等機關兵曹	一人
一等兵曹	二人
二等兵曹	二人
一等機關兵曹	二人
二等機關兵曹	二人
三等廚宰	一人
二等水兵	二十人

百九十九

海軍

二等機關兵	三十人
二等主厨	二人

0526

内令第二百三十號

尻矢望樓無線電信機ハ修理ヲ要スルニ付當分ノ間通信ヲ取扱ハス修理竣成セハ更ニ令達ス

明治四十年十二月十一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

二  
百  
海  
軍

0527

内令第二百三十一號

横須賀鎮守府工作船

關 東 丸

右全定員ヲ置ク

但定員中工作長、造船大技士及技手ヲ除ク

明治四十年十二月十一日

海軍大臣 男爵 齋藤 實

二百一

海軍

0528

内令第二百三十二號

本年内令第七十二號別表生駒乘員表ヲ附表ノ通改正ス

明治四十年十二月十三日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

二四二

海軍

0529



内令第二百三十三號

海軍定員令中左ノ通改正セラレ

明治四十年十二月十七日

海軍大臣 男爵齋藤 實

別表海軍砲術學校定員表中二等主厨ノ下「九」ヲ「八」ニ、三等主厨ノ下「十一」ヲ「九」ニ、計ノ欄内「二百〇三人」ヲ「二百人」ニ改ム

別表海軍水雷學校定員表中中少軍醫及中少主計ノ下「一」ヲ各「二」ニ、一等兵曹ノ下「二十六」ヲ「二十八」ニ、一等機關兵曹及二等機關兵曹ノ下「十七」ヲ各「十九」ニ、一等水兵ノ下「三十二」ヲ「三十四」ニ、二等水兵ノ下「七十四」ヲ「七十八」ニ、一等機關兵ノ下「十八」ヲ「二十」ニ、二等機關兵ノ下「二十一」ヲ「二十三」ニ、二等主厨ノ下「五」ヲ「六」ニ、三等主厨ノ下「六」ヲ「八」ニ、計ノ欄内「三十人」ヲ「三十二人」ニ、「百〇一人」ヲ「百〇七人」ニ、「百七十二人」ヲ「百八十五人」ニ改ム

二百三

海軍

0531

官房機密第五〇九號

明治四十年度ニ於テ施行シタル艦砲戰闘射撃成績ヲ調査シ艦砲射撃褒賞令施行規則第九條ニ依リ褒狀ヲ授ケ艦砲射撃優勝旗ヲ附與スヘキ最優等艦艇ヲ左ノ如ク指定ス

明治四十年十二月二十一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

一、戰艦一等巡洋艦

出 雲

二、右以外ノ軍艦

新 高

三、驅逐艦

夕 風

四、水雷艇

第四十七號水雷艇

0532



内令第二百三十四號

鎮海防備隊及永興防備隊ハ防備隊職員勤務令ニ於テ規定セルモノノ外尙キ左記各號ニ據  
リ服務スル儀ト心得ヘシ

明治四十年十二月二十日

海軍大臣 男爵齋藤 實

- 一 司令官ハ韓國ノ官廳又ハ公署ト公事ノ往復ヲ爲スニハ統監若ハ地方理事官ヲ經由ス  
ヘシ但シ急速ヲ要シ地方理事官ヲ經由スルノ違ナキ場合其ノ他已ムテ得サル事由アル  
場合ニハ直接往復スルコトヲ得
- 二 司令官ハ外國軍艦ノ來港スルモノニ對シ其ノ動靜ニ注意シ之ニ關スル必要ノ牒報ヲ  
進達スヘシ又其ノ出入港及緊急ノ事項ハ海軍大臣及所屬長官ニ電報スヘシ
- 三 司令官ハ其ノ部下逃亡シタルトキハ之カ逮捕及引渡方ヲ地方理事官ニ請求スヘシ但  
シ事宜ニ依リ自ラ之ヲ逮捕引致スルノ手段ヲ執ルコトヲ得
- 四 司令官ハ海賊暴民等ヲ逮捕シタルトキハ附近警察官署又ハ理事廳ニ引渡スヘシ但シ

二百三十四

海軍

- 場合ニ依リ所屬長官又ハ海軍大臣ニ具申シ其ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ處理スルコトヲ得
- 五 司令官ハ所在海軍用地及同地内ニ在ル貸下地ノ保管監理ヲ爲スヘシ
  - 六 司令官ハ海軍用地ノ貸下ニ關シ制定シタル規定ノ條項中改廢ヲ要スルトキハ海軍大  
臣ノ承認ヲ受ケ施行スヘシ
  - 七 司令官ハ貸下地借地料ノ輕減免除ヲ要スト認メタルトキハ海軍大臣ニ具申シ其ノ指  
揮ヲ受ケテ處理スヘシ
  - 八 司令官ハ借地人ニ於テ借用地ヲ荒廢ニ歸セシメ若ハ遵守スヘキ條項ニ違背シタルト  
キハ相當ノ處分ヲ爲シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ
  - 九 防備隊條例第十九條ニ依リ置カレタル司令官ハ地方ノ安寧ヲ維持スル爲兵力ノ使用ヲ  
必要ト認ムルトキハ所屬長官又ハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ケ處理スヘシ但シ火急ニシテ  
已ムテ得サルトキハ司令官ニ準シ處理スルコトヲ得
  - 十 主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ貸下地ノ整理及借地料ノ徵收ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル  
ヘシ

0533

内令第二百三十號

横須賀鎮守府第一豫備艦

軍 艦 高 雄

右全定員ヲ置ク

明治四十年十二月二十日

海軍大臣男爵齋藤 實

内令第二百三十號

横須賀鎮守府第一豫備艦

軍 艦 滿 州

右第二豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク其ノ定員ハ明治三十九年内令第二百十六號別表ニ依

ル

明治四十年十二月二十日

海軍大臣男爵齋藤 實

二百三十五

海 軍

0534

内令第二百三十七號

明治四十年度檢定射撃ニ於ケル優等成績ハ左記標準命中彈數以上ノモノトス

明治四十年十二月二十六日

海軍大臣 男爵齋藤 實

軍 種

砲 種

標準命中彈數

十二尹砲塔砲	二
十尹砲塔砲	三
八尹砲塔砲	四
八尹單裝砲	五
四十五口徑	八
十五擲速射砲	七
四十五口徑(一擲式)	七
十五擲速射砲	七
四十五口徑(三擲式)	七
十五擲速射砲	七

二百六

海軍

四十口徑

七

十二擲速射砲

七

四十口徑

七

十二斤速射砲

七

一號式

七

短十二斤速射砲

七

四十七密米重速射砲

七

四十七密米輕速射砲

七

四十七密米重速射砲

七

四十七密米輕速射砲

七

四十七密米重速射砲

七

四十七密米輕速射砲

七

標準命中彈數

七(望遠鏡照準器ヲ使用セザリシモノハ五トス)

0535

内令第二百三十八號

明治三十六年六月内令第五十七號下瀨火藥使用ノ敷設水雷裝填法中「各種水雷ノ敷設距離表」ヲ左ノ通り改ム

明治四十年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤 實

各種水雷ノ敷設距離表

下瀨火藥裝填水雷罐ノ種類	裝藥量	水雷ノ種類及敷設距離(ヤード)						
		球形浮標水雷	球形浮標水雷	球形浮標水雷	球形浮標水雷	球形浮標水雷	球形浮標水雷	球形浮標水雷
球形浮標水雷	二六二 吉瓦	九〇	九〇	九〇	一一〇	一一〇	一一〇	九〇
全電氣觸發水雷	五九 吉瓦	九〇	六〇	五〇	九〇	八〇	七〇	五〇
全電氣機械水雷	三一 吉瓦	九〇	五〇	五〇	九〇	八〇	七〇	五〇
風形海底水雷	二九四 餘吉瓦	一一〇	九〇	九〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
全浮標水雷	二二五 餘吉瓦	一一〇	八〇	八〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
圓錐形水雷	五八 餘吉瓦	一一〇	七〇	七〇	一一〇	一一〇	七〇	七〇
圓錐形水雷	三一 餘吉瓦	九〇	五〇	五〇	一一〇	一一〇	七〇	五〇
機械水雷	九四 吉瓦	—	—	—	—	—	—	—
露式電氣觸發水雷	—	—	—	—	—	—	—	八〇

備考

綿火藥ヲ裝填スル舊式各種水雷ノ敷設距離ハ従前ノ通り

二百七 海軍

0536

内令第二百三十九號

第一艦隊  
軍 艦 吾 妻

右第一艦隊ヨリ除キ第二艦隊ニ編入セラル

明治四十年十二月二十八日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

二百八

海 軍

0537

官房機密第五二七號

戰時病院船ニ搭載スヘキ患者用滋養品初度供給額別表ノ通り定ム

明治四十年十二月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤 實

(別表)

病院船ニ搭載スヘキ患者用滋養品初度供給額	
品名	數量
罐詰牛乳	百三貫六百八十匁 (四ダース入十六函)
牛肉エキス	一貫四百四十匁 (十二斤)
肉ペプトン	一貫四百四十匁 (十二斤)
最好葛粉	四貫匁
チヨトミール	四貫匁
乾温鮑	十貫匁

紅茶	十貫匁
角砂糖	六貫匁
赤葡萄酒	一斗二升八合 (四合入三十二本)
罐詰野菜類	
グリーンピース	二十八貫八百匁 (四ダース入四函)
松茸	二十八貫八百匁 (右) 同
胡蘿蔔	二十八貫八百匁 (右) 同
筍	二十八貫八百匁 (右) 同
鶏卵	氣候ニ應シ保存度ヲ酌量シ適宜
牛酪	五貫七百六十匁 (四ダース入一函)
○シヤム	二貫八百八十匁
○ニハ	一貫二百匁
○ビスケット	六貫匁

○ 麥	粉	十八貫匁
梅	干	三十二貫匁
味	噌	三十二貫匁
紅	生 姜	四貫匁
漬	物 類	
奈	良 漬	四貫八百匁
福	神 漬	八貫匁

備 考

一 本表ハ患者二百名以下ヲ收容シ得ヘキ設備ヲ有スル病院船一隻ニ對スル數  
量トス

二 收容患者二百名ヲ超過スルモノニ對シテハ收容患者數五十名又ハ五十名未  
滿ヲ増ス毎ニ表中○印アル品種ヲ除キ本表數量ノ四分ノ一ヲ増加スルモノ

トス

三 梅干、味噌、紅生姜及漬物類ハ容器ノ都合ニ依リ數量ニ多少ノ増減ヲ爲スニ  
トヲ得

四 罐詰野菜類、漬物類中ノ品種ハ適宜他ノ品種ヲ混用スルニトヲ得

0539

内令第二百四十號

右第二艦隊ヨリ除カル

第二艦隊  
軍艦 筑波

右全定員ヲ置ク

横須賀鎮守府第一豫備艦  
軍艦 八雲

横須賀鎮守府第二豫備艦  
軍艦 武藏

吳鎮守府豫備艦  
軍艦 筑波

吳鎮守府第二豫備艦  
軍艦 明石

右第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

明治四十年十二月三十一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

二百九 海軍

0540